李仙得建議書譯草

大蔵省

114
A4463

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第四十二号

発端

今内外政務上ノ論議ニ就テ此ニ樺太島ノ事ヲ論セントス蓋シ此島ハ日本ノタメ一大患害タルモノナリ何ントナレハ則チ露西亜国ニ付與セントセハ国内人心ノ動揺ヲ醸シ從テ英国ノ猜忌ヲ起サシ了必然ナルノミニアラサルナリ又之ヲ日本ニ於テ保有セントセハ必ス魯国トノ間ニ葛藤ヲ生スルニ至ルヘシ抑此景況ニ於テ若シ日本ノ進歩半途ニ姑息スル片ハ之

カ為メニ此患害ヲ避クル能ハサルノミナラス
却テ嚴重ナル謹愼ヲナスヘキ後患ヲ增加シ且
專要ナル豫防ヲナスヘキノ艱難ヲ蕃殖スヘシ
而シテ方今ノ目途ヲ以テ永ク將來ニ施行セン
トセハ必ス其国害ヲ生スル日一日ヨリ多カル
ヘシ
樺太島ノ事ニ因テ之ヲ觀レハ日本ハ決シテ彼
ノ両国ノ心ヲシテ相滿タシムルヲ得ス是此事
ニ関係スル利害ノ道一ナラサレハナリ何トナ
レハ若樺太ヲ擧テ魯国ニ讓ル時ハ彼ノ東洋ニ

於テ他国ノ海軍盛大ニ至ルヲ拒ミタル英国祖
先ノ目途ニ反ス又日本ニテ此島ヲ保有セント
スル時ハ後来亜細亜州ニ事変アルニ及テ其親
睦ヲ仰キテ之カ應援タルヘキ一大強国（則魯国）ヲ
捨ツルニ至レハナリ殊ニ該嶋ハ魯西亜ノ為メ
ニハ要用ナリト雖モ日本ニ於テハ從来格別ノ
利益タラサル土地ヲ讓渡シノ代價トシテ魯国
ヨリ相當ノ償金ヲ領收スヘキ機會ヲ失フヘシ
千八百五十八年第七月二十九日江戸條約第
二條ノ趣ニ就テ樺太一件ニ付和解ノ事ヲ日

本政府ノ依頼ニ依リ大統領ニ於テ媒妁人トナリ
千八百七十年在日本合衆国公使「デロング」氏
并ニ華盛頓政府ト在「シントペートルスボル
グ」合衆国公使トノ間種々往復ヲ重ネタル其
結末ニ及テ魯国ニ於テハ合衆国ノ媒妁ヲ嚴
ニ拒ミタレトモ猶合衆国政府ニ就テ日本ニハ
如何ナル方法ヲ以テ該嶋ヲ譲渡サン事ヲ承
引スヘキヤノ見込ヲ焉ト取糺サン事ヲ乞ヒ
且現実相當ノ償金ヲ出サン「ノ意ヲ述タル
由此往復ノ情実ハ未タ日本政府ニ充分通達

アラサル旨ヲ或ル人語レリ然レトモ此事件ニ
係ル書類ハ合衆国公使館ノ文庫ニ備アリ
テ千八百七十年ノ往復書第八十五号ヨリ此
事件ニ渉リシ初メト聞ケリ

第二

該島ヲ魯西亜ニ付與スヘキ所以如何ノ事
「アニワ」港ノ事ニ因テ初メテ魯国ニ送リシ日本
使節ハ竹内下野守松平石見守ヲ巨魁トシテ千
八百六十二年中日本ヨリ「シントペートルスボ

ルク」ニ発セシメタリ當時談判スヘキ使命ノ趣ハ
第一、五十度ヲ以テ両国ノ境トシ「アイノ」人種ト
「スメレンクル」人種トノ間ノ區分ヲ以テ其分界
ヲ立ツル事第二ニハ島中各部銘々ノ版図ニ入リ
シ部分ハ其管轄国ノ官吏之ヲ統理セシ事ヲ示
談センカ為メナリ然レトモ露西亜ニ於テハ四十
度以北ハ「アイノ」人種ノ居ヲ占メス且島中適宜
ノ境界ト定ムヘキ根據ナキヲ辞柄トシテ此談
判ヲ拒ミ最前下田ニテ仮ニ取結ヒタル條約ニ
基キ從前ノ通リ百事ヲ据置キ双方ノ国民互ニ
雑居ヲ許サンヿヲ主張セリ竹内并ニ其同僚ニ
於テモ魯国ノ論議ハ事ニ托シテ辞柄ヲ設ケ終
ニハ全島今日ニ至テハ此意ヲ隠サヽル由既ニ事件ニ付佛国政府ヘ通信ニ及ヒシ旨
ヲ同国公使ヨリ傳聞セリ魯国ノ説ニハ若魯国ニテ談島ヲ取ラサンハ英国ニテ取ルヘシト
云フヲ蚕食セントノ意アルヲ洞察セリト雖モ
其土地ノ実況ヲ知ル充分ナラサルヨリ敢テ之
ニ反論スル能ハス故ニ実地検査ノ上更ニ會ス
ヘキ日マテ此談判ヲ延ハシテ使節ハ日本ニ帰
朝セリ
此使節日本ニ帰朝ノ時ニ當リテ事故アリ故ニ

政府ノ希望セシ如ク速ニ再度ノ使節ヲ「シント
ペートルスボルク」ニ送ル事ヲ得サルノ形勢ニ
立至リ魯国ニテハ此因循ノ久シキヲ好機會ト
シ樺太島ニ於テ廣大ナル殖民地ヲ開ケリ而メ
千八百六十七年ニ至リ小出大和守石川河内守
ヲ魯西亜ニ送リシト雖モ既ニ五年間ノ怠リヨ
リ生セシ損害ヲ償ン事当時甚タ時機ニ後レ魯
国ハ其所有トセシノ條理実ニ強ク千八百六十
二年ノ條約書ニ從テ既ニ着手セシ土地ハ其国
ノ所属タルヿヲ主張シ且島中未タ着手セサル
部分ハ向来両国ノ人民互ニ殖民ヲナシ以テ所
属トナスヘキ旨ノ談判アリタリ於此小出并ニ
其同僚熟議シテ曰ク今日及フ所ノ議論ハ恐ク
尽セシト雖モ実況魯国ノ所属ハ五十度以南ニ
蔓延セリ今日マテ談判ヲ延引セシハ則チ我国
ノ過チナリト依テ魯西亜ニテ発言ノ趣旨ヲ基
本トシ條約ヲ結ヘリ実ニ千八百六十七年中ナ
リ近世史略中千八百五十三年ヨリ
千八百五十九年ヲ見ルヘシ
此條約ハ大ナル過失ナリ其故ハ確乎タル異存
ヲ述フヘキ魯国ノ蚕食ヲ公然承認セリト謂ヘ

キノミナラス魯国ヨリ該地ヲ開拓スルハ最モ便益ナリト考フルトキハ日本ヨリ之ヲ反論スルノ條理ヲ失シ後来多分ノ土地ヲ所属トスルノ機會ヲ彼ノ国ヘ與ヘシモノニシテ終ニハ全島ヲ蚕食スルニ至ルヘシ是大ニ使節ノ豫防スヘカリシ所以ナラスヤ

今日魯国ヨリ盛ニ島中ヘ殖民スルノ筭理ハ全ク彼ノ軽卒ニ取結ヒタル條約書ヨリ生ナシモノナリ而メ此條約ヨリシテ豫テ彼国ニ於テ望ム所ノ好機會ヲ投與セシト謂フモ可ナリ

今日ノ形勢ニ至テハ日本ニ於テ魯国ノ勉強并ニ企計ニ並立スルヲ得而メ雑居條約ノ趣旨ニ隨ヒ双方ニテ為スヘキ明白ナル義務即チ一般ノ敵ニ對シテ双方ノ所属地ヲ防禦スル如キノ義務ヲ盡スニ非サレハ徒ニ魯国ヲシテ強テ日本ノ如ク之ヲ怠惰セシムルヲ得ス此義務タル亦固ニ重任ニシテ初メ之ヲ受サルヽ日豫メ日本ニ於テ之ヲ熟考シ得サリシ所以ナリ

又両国ノ人民島中ニ雑居シ同権ヲ有スルト雖モ両国政府ノ所分外ニ出テ島内ニテ人民設立

スル一般ノ市政取締規則其他百般ノ事ニ付日本人ハ少負ニシテ癸言ヲ為スモノ些々タルヘシ故ニ魯人ハ屢土地ノ主長タル形情ヲ顯ハスニ至リ必ス雜居日本人ノ意ヲ損傷シ易シ而メ日本人ニ於テハ此意ニ反シテ又均シク同権アレハ衆議ニ癸言ノ権ヲ有スルヲ知リ互ニ忌諱ヲ抱クニ至リ終ニハ雜居人ノ間諸般ノ葛藤ヲ生シ從テ地方ノ官吏ニ於テ双方ノ意ヲ満々シメテ之ヲ鎮壓シ得ヘカラサル爭鬪ヲ起スヘシ而メ常ニ弱者ノ胸中ヲシテ強者ヲ忌嫌スル

ノ念慮ヲ起サシムルノ外他ナカルヘシ其甚シキニ至テハ互ノ交際立カタキニ及フ必セリ此時ニ方テハ双方ノ政府ハ永ク局外中立モノトシテ之ヲ傍観スルヲ得サルヘシ

譬ヘハ両人ノ者産業上ニ就テ互ニ盟約ヲ結ヒシニ事故アリテ信義ヲ失シ爭論ヲ起サントスルニ当テハ其情実ニ於テ頓ニ和解スヘカラサルモノナリト雖モ互ニ永ク和親ヲ保タン事ヲ欲スルトキハ其利ヲ分賦スルノ外他ノ策無シ今日樺太島ノ事件ニ於ルモ亦魯西亜ト日本トノ

間斯ノ如キノ形勢ナル事明白ナリ若此争論ノ
根源ヲ除カサレハ将来両国間ノ交際如何ナル
ヘキヤ夫誰レカ敢テ之ヲ豫言スルヲ得ンヤ若
夫日本今日ヨリ実ニ二三十年ヲ経ルニ及ヒテ
ハ或ハ強大ナル薩国ト相抗スルヲ得ルヿアル
ヘシト雖モ今日ニシテ以テ之ト對峙抵抗スル
ヲ得ヘシトナスノ有目ハ恐クハ一人モ無カル
ヘシ而メ今若両国間ニ争闘相起ル件ハ亦
於テ樺太島ヲ失スルノミナラス從テ全世界ノ
嘗弄ヲ受クヘキノミ

斯ノ如キ形勢ニ至テ依然姑息ニ渉ル件ハ蓋シ
日本ノ為メ自ラ滅亡ヲ招クナリ殊ニ今日ニ及
ンテ只所及ノ有益ナル約束ヲ以テ該島ノ付與
スルノ外敢テ良策アルヿナシ謂ツヘシ国家ノ
政務上重大ノ一事件ニ属セリト加之此事ヲ處
分スル毫モ緩慢スヘカラス若シ誤テ遲疑ニ及
ハヽ日本ノ為メ大害ヲ発スヘシ何シトナレハ
則チ方今魯国ニ於テハ盛ニ該島ニ植民シ孜々
トシテ島中ノ居住人日一日ヨリ増加ス是ニ於
テハ漸次土地ヲ失フモノ亦日一日ヨリ多シ斯

ノ如キ形勢ニシテ今日ヲ経過セハ数年ヲ待タスシテ日本ヨリ付與セントスルノ地ナリ從テ領收スヘキ贖金ヲ得サルヘシ況ヤ千八百六十二年并千八百六十七年中幕府ニ於テ釀生シタル過失ヲ償フノ期ナキニ於テヲヤ

第三

内地人民ハ樺太島ノ讓渡ニ反スルノ議如何ノ事

日本ニ於テ西洋各国ノ内何レノ国ヲ向ハスト日本ノ直隣地ニ穩脚所ヲ領有スルヲ防カントスルノ意ハ予カ輙ク了解スル所ナリ然リ而シテ日本ハ島嶼多クシテ固ヨリ進入スルニ易ク外ノ寇敵ノ為メニ略取セラルヽノ害最モ多シ大島ノ内深淵ナル碇泊所及ヒ港口等多数アリテ日本海軍ノ為メ之カ避難所ヲ為スト雖モ亦敵軍ノ上陸ニ便アリ其他今一事軟弱ノ原由アリ日本ハ「キリシヤ」或ハ「シシリー」ヲ除クノ外歐羅巴州中ノ島嶼或ハ半島ニ於テ山岳甚タ多ク且敵ノ略取シ得ヘキ樹木繁茂セリ故ニ一タヒ

冦敵ノ所有トナル時ハ皇国内防禦ノ為メ此地
ヨリ彼地ヘ送ハヘキ兵隊ヲ其林中ヨリ炮撃ス
ルヿ容易ニシテ之ヲ防禦スル事亦難カラス
日本ハ四嶋ヲ合セテ一国ヲナス所謂蝦夷日本
九州四國是ナリ而メ此島ヲ合シタル全国ノ方
里七千マイルノ内海岸千百七十マイルアリ然
ルトハ平面六マイルニ付海岸凡一マイルニ当
ル日本方今通航ノ形勢ニ於テ此長線ヲ防禦ス
ルハ実ニ難キ所ナリ仮令東京大阪鹿児島及ヒ
下ノ関ノ如キ最モ肝要ノ地ハ防禦スルノ術ヲ

得ルモ国内数百里ノ間ニ兵隊ヲ分配セサルヲ
得ス蓋シ冦敵ノ海軍一タヒ日本海ニ侵入スル
ヤ即チ小島ハ大地トノ通信ノ道ヲ絶シ各孤立
スルニ至リ大島ト雖モ亦各一島毎ニ略取セラ
ルヽ時ハ従テ一般ノ音信ヲ絶ツニ及フヘシ下
ノ関及ヒ其他ノ地ニ三ケ所ヲ略取セラルヽニ
当テハ英国ニテ「テームス」并ニ「エリザベス
ホルム大」ニ兵ヲ徴集スル如ク日本ニ於テハ全
国ノ兵カヲ一ケ所ニ徴集シ防禦ノカヲ合スル
等ノ事ハ固ニ難カルヘシ加之日本ノ漁業ハ衰

微シ又冠款策ヲ得テ内地ニ進攻スル時ハ輙チ
田地ヲ破却スル事ヲ得ヘシ此時ニ当テ日本人
ハ従来専ラ米及ヒ魚等ヲ以テ食料トナシテ未
タ綿羊ヲ所持スルモノアラス只僅ニ牛豕ヲ所
持スルノミナシハ直チニ餓死ノ景状ヲ顕ハス
ヘシ

今此不幸ナル地勢ニアル日本ノ最モ恐懼スヘ
キ国ハ何シナルヤ敢テ之ヲ説明スヘシ
現今ニ因テ之ヲ考フレハ 支那 ○
是今日ニ於テ改革ノ有無ヲ見越シテ云フニ

支那ノ注

アラス若シ支那方今ノ改體ヲ改正セハ則チ
強国トナルノミナラス外征ノ勢ヒニモ立至
ルヘシ故ニ日本ニ於テハ今日豫メ其備ヲナ
サヽルヘカラサルノ時ナルヘシ今日日本ニ
於テ其備ヲ為サハ亜細亜州ノ国民ニ就テ恐
ルヽ処毫モ無カルヘシ何トナレハ日本人民
ノ勇氣及ヒ愛国心ヲ以テ国家ノ防禦ニ適当
スル備ヲ設クルトキハ仮令亜細亜州人民ヨリ
攻撃ヲ受ルトモ必勝タル趨ヲ容レサレハナ
リ

而シテ朝鮮ハ敢テ顧念スルニ足ハス且亜米利
加州ヨリハ蒸氣船ニテ来ルモ二十日歐羅巴州
ヨリハ四十五日ノ遠路ナリ故ニ新古世界ノ兵
隊ヲ以テ攻撃セラルヽノ憂ナカルヘシ仮令此
西州中ノ一国日本ヲ攻撃スルノ兵力アリト雖
モ種々ノ事故アリテ其事ヲ果ス能ハサルヘシ
既ニ佛国ノ人民ハ他国ニ出ルヲ忌ミ自国ヲ
愛スルナリ是故ニ国務上ニ因テ之ヲ見ル片
ハ亜米利加州ノ「アルゼリヤ」ヲ除クノ外他ノ所
属地ノ内ニテ佛国ニ利益ト成ルモノアル「無
シ「サイゴン」「安南」ヲ版図ニ入レシハ千八百五十
八年支那ト戦争ノ後東洋ニ於テ英国ノ威勢ト
並立センカ為メ同所ニ属地ヲ有シ其目途ヲ達
セントノ意ニ出テヽ幸ヨリ勢ヒ止ムヲ得ナル
ニ由ルノミ而メ既ニ其目途ヲ達シタレハ佛
国ニテハ将来敢テ餘剰ノ地ヲ望マサルヘシ何
トナレハ佛国若シ此宿意アラハ先年中朝鮮ト
争闘起リシノ日該国ヲ略取スヘキノ好機會至
リシヲ必ス失ハサリシナルヘシ又獨逸国ニ於
テハ今日ニ至ルマテ東洋ニテ廣大ノ領地ヲ得

ントスルノ意ヲ発表セシヿナシト雖モ蓋東洋
中海軍破泊所一ヶ所ヲ得ント欲セシナルヘシ
嘗テ此月逕ヲ遂ント欲セシヤ千八百六十九年
及ヒ千八百七十年中臺湾并ニ「ペスカトル」澎湖ノ
事ニ就テ非常ノ探索ヲ為シ且其前「チューサン」那
ヲ所属トセントヒテ大ニカヲ尽セシノミ若シ
獨逸国ニ於テ果シテ亜細亜州中ニ領地ヲ廣ク
ント欲セハ千八百七十一年佛国ト和睦條約取
結ノ時「コーチンチャイナ」安南ヲ譲受ノ約諾ヲ為ス
カ或ハ和睦ノ後ト雖モ獨逸国ニ於テ佛国ヨリ

受取ルヘキ軍資償金ノ内ヲ以テ該地譲受ノ示
談ニ及ヒシナルヘシ然ルニ此示談ニ及ハサル
ハ獨逸国ニ取リテ其土地廣大ニ過クルニ由ル
ナルヘシ
李国ニ於テ支那ノ衰微ヲ勘考シ他日支那ニ
事アリテ国ノ乱レニ至ルノ機會ヲ待テ而後
一港ヲ得ント相窺フハ必定ナリ同国ニテハ
「ペチリ」ニアル「ペイホー」河ニ添フ一港或ハ其
以南ニ在ル他ノ場所ヲ望ムナルヘシ然レトモ
其機ニ当テハ李国ノミナラス其他各国ニ於

テモ亦兼テ得ントスル機會ヲ助クルナルヘ
シ
東洋中猶「フォルリピン」諸島ヲ有スル西班牙アリト
雖モ「チャルレス」第五世并ニ「フォルリップ」第二世王ノ
時代ハ既ニ過去ト成リ後世再ヒ其時代ノ盛ア
ルニ至ラサルヘシ又葡萄牙ニ於テハ「マカヲ」及
ヒ和蘭ニテハ南方ノ諸島ヲ有スルト雖モ亦西
班牙ノ形勢ト同轍タルヘシ唯恐ルヘキハ魯西
亞ト英吉利ト両国アルノミ

第四

象西亞ノ樺太島ヲ要スルノ義如何ノ事
「シベリヤ」支那及ヒ滿州地ニ於テ魯国ノ領地ヲ
廣ムルハ果シテ亞細亞州中ニ魯国ノ威権ヲ振
ハントス欲スル大志ヲ證スルニ足リ「ポシエット」及
ヒ「ニコライスキ」ニ築港ヲ設ケアルハ蓋該地ヲ
根據トシ漸次日本ノ地方ヲ征服セントノ意ニシ
テ樺太島ヲ所屬トセントノ企望モ亦此意ニ出
タリ且蝦夷地ヲ襲フノ機會ヲ窺ハンカ為ノ賢
オノ名アル公使ノ一人則「ブーチョフ」永ク箱館ニ在

留セシメ又該地ノ人民ヲシテ「ギリーキ」宗ニ引
導セシメントシテ数年間傳教師ニ尽カシメ
以テ略取ノ際ノ助力ヲ計リ加之常ニ朝鮮ヲ窺
ヒ魯国ニ便宜ノ機會ヲ待テ必ス直チニ彼国ヲ
略取シ尋テ彼処ヨリ日本ノ本地ニ進入スヘシ
ト謂フハ一般ノ人口ニ膾炙スル所ナリ
予カ意ヲ以テ之ヲ考フレハ未タ此説ノ確実タ
ルノ証跡アルヲ見ス魯西亜ハ大平洋海岸ニ於
テ日本ノ獨立或ハ威力ヲ壓制スルニ充分ナル
兵勢ヲ保有セス黒龍江地方ヨリ魯国都府ノ間

タル里数ト其僅カナル住民并ニ此辺ニ海陸軍
ヲ充備スルノ費用トヲ推考スルトキハ仮令略取
セントノ謀畧アルトモ魯国ハ数百年ヲ経ルニアラ
ラサレハ日本ニ對シ何事ヲモ為シ得ヘカラカ
ルノ確証数多アリ
魯西亜ハ此地方ニ於テ其企望ヲ達セントスル
ニ都府ヨリ格外隔リ内至四千マイルアリテ日
本ハ自国ニアリ且英国ノ印度ニ擴張スルヲ窺
ヒ之ヲ防カシ為メ亜細亜西部ヲ望ムノ外ニ尚
魯国ニテ亜細亜東部ニ所領ヲ真ニ得ントト欲セ

ハ豈今日マテ進軍ノ策ヲ因循スヘケンヤ必ス
防禦ノ備アラサル朝鮮ヲ既ニ版圖ニ入レシ
テ攻撃并ニ防禦トモ「ポシエット」或ハ「コライス
キ」ニ優レル港口ヲ得ヘカリシナリカフルニ日
本ヲ侵掠シ征服ノ後外寇ヲ防キ此国ヲ保有セ
シニハ朝鮮ヲ略取スルヲ以テ第一ノ順序トス
ヘシ

英国及ヒ日本両国ノ地勢ト魯国ノ地勢トヲ比
較シテ考フルヤ東洋ニ於テ為スヘキ魯国ノ
目途ハ明白ナルヘシ仮令樺太島ノ一事及ヒ支
那ト論アリシ土地ノ事ニ付テハ大ニ疑惑ヲ生
スルノ根據アリト雖モ世界ノ地圖ヲ一目スル
時ハ唯事実要用ナル地ヲ除クノ外魯西亜ノ大
目的ハ亜細亜北部ニ於テ、其及フ所ニ従テ所
領ヲ廣ケンヿヲ避ケントノ目途ナルヘシ魯国ニ
テ「シベリヤ」ヲ望ミシハ満州地ニ在ル海軍ノ集所
ト食料及ヒ兵隊ヲ進発スル内地トノ間ニ氣脉
ヲ通センカ為ナリ而シテ魯国ニ於テ必ス満州
ヲ所有セサルヲ得サルノ由縁ハ英国ノ印度ニ
於ケルカ如ク向来欧羅巴各国ノ容易ニ略取シ

得ヘキ弱国ノ人民ヲシテ此海軍屯集所ノ周囲
ニ居住セシメハ仮令彼レカ海軍所ヲ保有シ難
キニ至ラサルモ実ニ其地位最危難ノ基ナレハ
ナリ是乃チ海軍所ヲ得ン事ヲ希望スルノミニ
シテ敢テ領地ヲ欲スルニアラス此海軍所タル
ヤ「セバステポール」并ニ「コロウンスタット」ノ如
ク堅固ナル旨ヲ聞及シト雖モ未タ魯国ニテ東
洋中ニ希望スル出路ニアラス仮令右海軍所ヲ
所有スルト雖モ欧羅巴中「バルティック」海及ヒ
黒海ニ於テ炮臺及ヒ海軍所ヲ有スルト同般ニ

ヲ更ニ國勢ヲ振フニ足ラス「バルティック」海
及ヒ黒海ニアル海軍所ノ如キハ一ケ所ハ那
威ト丁抹トノ間ニアル「スカヂラック」地名
及ヒ「カテガット」上ノ間今一ケ所ハ欧羅巴土耳格
ト亜細亜土耳格トノ間ニ在ル「ダルダネル」
ノ堅固ナル関門ニテ閉鎖セラレタリ此地
位ヲ脱セン二ハ大洋ニ自由ニ出入シ何時
ニテモ事アルニ當リ敵国ノ領地并ニ貿
易ヲ害スル為メ海軍ノ出兵シ得ヘキ
港ヲ所有セサルヲ得ス

此形状ニ於テ一般ノ難事ハ姑ク置キ日本ヲ征服シ得ヘキモノト見做シ此国ヲ降服セシ後猶戰鬪ヲ常トスル日本人民ヲ管轄スルニ於ケル一難事ヲ思考セサルヲ得ス若シ之ヲ顧ミシハ日本ノ如キ困弊ノ領地ヲ有スルハ魯国ノ為メ却テ益ナキナリ其隣国ニ獨立且強国アルハ「ポシェット」「ニコライスキ」ヲ「アニワ」港ニ

在ル魯国海軍屯集所ノ保護及ヒ勢援トナル故ニ双方ノ信義ト両全ノ策トヲ根基トシ和親ノ盟約ヲ為スハ魯国ノ為メ最肝要ナルヘシ

東洋ニ於テ威力ヲ振ハントト欲スル魯国ノ目途ハ早晩英国ト其威力ヲ相競ハントスルニアリ故ニ魯国ノ日本ト共ニ国利ヲ均シク計ラントト欲スルモノハ唯日本ヲシテ英国ノ勢威ハ下ヲ制壓セシメサラントヲ欲スルノミ是以テ魯国ニ於テ日本ノ改権ヲ握ル人々等カ件ノ目途ヲ以テ進行スルノ意ヲ識認スル時ハ速ニ當国ニ

對シテ交際ノ方法ヲ変更セサルヲ得ス若又日
本ヲ親友国トスルヲ絶念スルニ及テハ百年前
英国ニ於テ合衆国トノ交際上ニ施セシ策略ト
等シク日本ノ強国トナリテ魯国ノ為メニ英国
同盟ノ強国タラン事ヲ妨害シ日本タシテ只英
国ノ物産ヲ賣捌ク市場タル歐羅巴州中局外ノ
立国ノ和蘭、白耳義瑞西并ニ土耳格同般ノ国勢
ニ制壓シテ之ヲ置カントスルノ策畧ヲ施行ス
ルヲ以テ魯国ノ得意トナスヘキノミ

第五

日本ノ最恐ルヘキ所ハ英国ニアルノ事

予聖スルニ日本ノ最恐ルヘキ所ハ英国ナルヘシ
英国ハ日本ヨリ僅ニ六日ノ滊船ヲ以テ達スル
最上ノ海軍屯集所ト成ルヘキ香港ノ所領アリ
加フルニ印度及ヒ澳太利ノ地方ニ巨萬ノ富ヲ
有シ其要用ナルニ方ツテハ輙チ香港ニ集積ス
ルヲ得又此地ヲシテ當国ニ對シ攻撃ノ本営ト
ナサシムヘシ此一題タルヤ大ニ其理アリ何ニ
トナレハ則チ英国ト其他各国トノ間貿易上関

係ノ便利少ナカラス而シテ日本ト各国トノ貿易上ニ於テハ常ニ英国ニ劣ルカ為メニ政テ日本ニ助力スル国ハ無カルヘシ仮令合衆国ト英国トノ交際ヲ破ルヲ嫌フテ相果サヽルモ抑合衆国ト英国トノ貿易ニ於ルヤ其結交実ニ享ク殊ニ亜米利加国ハ非常ニ経費ヲ厭フ風習アレハ相当ノ償金ヲ受ケ難キ戦闘ヲ起シテ莫大ノ費用ヲ出スハ必思ルヽナルヘシ故ニ日本ノ為メ兵備シタル兼渉国（中間ニ居テ他人ノ事ニ渉ル）ヲ待ンニハ一朝日本ニ對シテ攻撃ノ用意スルニ当リ米国ト英国トノ間ニ生スル争論等ノ如キ非常ノ変事アルニアラサレハ焉ヲ能ク此助力ヲ得ヘケンヤ而シテ其時機ニ際シテハ英国ニ於テ日本トノ戦闘ヲ避ケントスルノミナラス其争戦ヲ遅延シテ日本国ノ局外中立タラシ需ムルハ彼ノ国ノ以テ益トナス所タルヘシ

佛国當今ノ形勢ニ因レハ日本ニ助力ヲ為シ得ヘキトハ思考シ難シ又獨逸国ハ東洋中海軍所無ク自国ニ於テモ亦殆ント海軍ヲ有セサルモノト謂ハンモ可ナリ故ニ他ノ方法ヲ以テ朋友

国ノ保護ヲ為サントスルニ戦争ニ於テハ格別ノ助力ヲ為ス事能ハス然リ而シテ魯国ハ未タ其国ノ利益トナルノ時至ラサレハ双方ニ左袒ヲ為スヘカラス但次章第五十一葉ヲ見ルヘシ

今ヨヽニ英国ハ日本ノ国事ニ就テ蓋シ兼渉ヲ為スヘキノ原縁ヲ説明スヘシ

英国ハ機関并ニ石炭坑ヨリシテ省減シタル職人五億萬人ノ勤力ヲ当時一国ニテ引受タリ其勤力ノ高クルヤ「マルキス、オフ、ウラルセルト」人名「蒸氣カヲ試験シ居タル時代并ニ「チヤルレス」第二世英国ノ王位千八百七十二年「ヲヰラデルフヰヤ」地名ノ「カレー」氏著シタル「ユニテイー、オフ、ロウ」書名等ノ書ヲ見ルヘシ談書中「カレー」氏曰ク今日人力ヲ生スルニ用ユル石炭ハ凡三億萬人ノ力ニ等シク此外ニ船舶五百萬「トン」ノ運轉スルニ用ユル風力アリ且鉄道并ニ蒸氣車ニテ得ル所引力アリ又時間并ニ場所ヲ省畧スル電信機アリ依テ方今用ユル種々ノ器械ノ発明ヨリ人力ノ利用ニ於テ此計并ニ必ス相違ナカル

ヘシト記載アリ

ニアリシ時代ニハ全世界ノ人民ニテ為シ得ハキ勤力ヨリモ其高多シ而シテ英国ハ年々此景状ニテ生スル所ノ莫太ノ製造物ヲシテ領地ニテ耗消スヘカラシムル人民ヲ有セサルカ故ニ他国ニ於テ其賣捌キ場所ヲ仰カサルヲ得ス若此賣捌所ヲ見出サヽシハ小島ニ群集セル三千六百萬人ノ人民餓死ニ至ルヘシ是以テ英国ニテハ此人民ヲ保護センカ為貿易品トナルヘキ他国ノ物品産出ノカヲ減セント欲シテ其蕃殖

ニ向フヲ防制セシ事ニ尽力セリ

次ノ表ハ千八百六十年中英国領地ノ廣狹及ヒ人口ヲ表出スルモノナリ

地坪　三十一万百四十三方「キロメートル」英国ノ領地ヲ悉皆合計スルトキハ百五十三万五百五十方里ナリ

人口　二千七百七十八万四千人英国属地総体合計ヲ為ストキハ二億千五百萬人ナリ

亜細亜州ニ於テ「カニチュ」湾「ベルガル」湾ノ東海岸ヲ

「ロシ」等ノ「ヒンドスタン」ノ島々過半
亜弗利加州ニ於テ
「セイシェル」及ヒ「キュイニル」ノ植民地
喜望峯ノ所領「シントヘレナ」島「テスセンション」島「モーリシ」島等

所領

大洋中ニ於テ
「ニウシラント」等
亜米利加州ニ於テ
「シントロレンス」河ヨリ「ポールアルシク」迄大陸并ニ島々過半
「プロンド」。ルカエ。ジヤマイク。其他小島過半

然リト雖モ土耳格、印度、澳太利、「ニウジーランド」「カナダ」、日本、支那、及ヒ合衆国ニ四充分ノ石炭坑アリテ各其国々ニテ製造物ヲ産出スル件ハ前件ノ国々ハ敢テ他国物産ヲ仰カス各自生活スルノ国トナルヘシ此時ニ当テ前件ノ国々ハ英国トノ交際ニ付テ今日他ノ西洋諸国トノ如ク彼我便利ニ基ツキ互ニ條約ヲ保全スルヲ得ヘシ

英国ニテハ此形状ニ至ルヲ豫防セントシ而メ自己ノ目途ヲ達セン為メニ他国トノ交際上頗ル粗暴ナル術計ヲ施スニ至レリ「サイントポール」人ノ名ノ「キリステーン」、「イントルチ」、「ヨナル」、「ライト」耶蘇州ノ萬国公法ト唱ヘタルモノヲ保護セシカ為メニ同人ノ鋭威ヲ世界中ニ波及セスンハアル

ヘカラサルヲ口実トシテ豫メ戦書ヲ送ラス以テ土耳格国ヨリ「プリム」島ヲ奪掠シ且炮勢ヲ假テ印度ノ鴉片ヲ支那ニ強賣スルヲ見タリ

鴉片ノ事ニ就テハ実ニ意外ノ事アリ印度ヨリ支那ニ輸出スル鴉片ヨリ生スル利益ハ印度政府一般ノ入費ヲ畧償フニ足リテ年々六千萬弗ニ至レリ既ニ千八百七十二年中ニハ其價三千八百五十二萬三千百十五テール一ヶ

(上海千八百七十三年四月三十日附税関監督長ノ報ニテ上板シタル貿易表ヲ見ルヘシ)

「イーハランド」国人ナル「ハルト」氏ヲ税関ノ監督長トシ其部下ニ附属セシムル外国人三百名其内英人三分ノ二アリ而シテ轉免ノ権ハ其長官ノ意ニ在リ此人員ノ内一ヶ年一万五千弗ノ高俸ヲ受取ルモノアリ此等ノ人ハ外国貿易上ヨリ支那ニ納入スル税銀ヲ集メ或ハ燈臺建築或ハ外国関係ノ政事ニ助力スルナリ故ニ英国ハ我領地内ニ於テ有スルト等シキ威権ヲ張リ且同国ノ物産ヲ発賣スルニ最モ適当ナル開市場ヲ有スルト云フヘシ

去ん此二百年間ニ印度濠太利及「ニウヂーラン
ド」ヲ略取セリ且合衆国ヲシテ充分開化ノ域ニ
進歩セシメハ早晩必大敵トナルヘキヲ知リ其
未タ盛大ニ至ラサル五十年前豫メ中間ヨリ分
離シテ其成長ノ基礎ヲ壓断セシメンコトヲ
尽セリ此策略ハ其発起人ニシテ榮名高ク当時
「カナダ」ノ令尹タリシモノ、書輪ニ於テ之ヲ知
レリ此人ハ千八百六十一年ヨリ千八百六十五
年マテ英国ノ人民南部ノ議員ヲ助ケ賣奴ノ論
ヲ保護シテ内国中ニ戰鬪ヲ生セシメ殆ト其月

逢ノ達セントスル期ニ至リシト等シキ企拳ヲ
千八百九年中行ハントセリ此人ノ策ハ亜米利
加南北ノ間ニ忌憚ヲ生シ自然分裂ヲ促スノ種
ヲ播シ而シテ其歴史中ニ前年ノ事アリテ佛国
ヲ貴重スルノ念慮亜米利加人ニ固着シタル一
愛心ヲ消滅セシメシ事ヲ英国ニ忠告セリ若此
事成就セハ大洋中英国ニ比スヘキモノアラス
尋テ北部ノ航海人ヲ擅ニ制壓スルニ於テ防障
ヲ為スモノ無ク南部ノ開発人ト名モ亦英国ニ
テ輸出ヲ禁スルヲ以テ適宜トナスヨハ何時ニ

テモ南部出産ノ木綿ハ價ナキニ至ルヘシ斯ノ
如クナルトキハ兼テ具備シタル器械中間断ナク
運轉ノ為定数ノ木綿竹高ノ輸入ヲ仰キタル心力
ンチヱストル（英国有名ノ木綿製造場）ノ製造人等自己ノ欲ス
ル所ニ從テ價ヲ定ムルニ至ルトモ開発人ニ於
テ敢テ其定價ヲ受サルヲ得ス然ルニ亜米利加
人ノ愛国心ト佛国人賢才ノ先見ニ依リテ此計
畧ヲ遂得サリキ
英国人種ニ於テハ苟モ自己利益アリシ以後ニ
至リ其信ヲ保ツ事ナシ初メ英国ニテ魯国ヲ卑

辱セントスル時ハ佛国ヲ以テ信忠ノ同盟国
ト称スト雖モ後チ此盟約ノ重擔トナリ或ハ償
ヲ受クルノ道無キニ至ルヤ否該国ヲシテ其天
運ニ任セ敢テ之ヲ救ハス（千八百七十年佛国ト
普国トノ戦争起リシ時ヲ云フナリ）
僅ニ二三ヶ月以前亜弗利加ノ「ゴールト、コスト」ニ海軍隊ヲ送リシモ他ニ條理アルニアラス
只土人ノ他ノ物品ト交易スルヲ望マサル空金
属ヲ要スルヲ為ナリ且彼国ノ巧者ナル経済ノ
方法ヲ以テ種々ノ計策ヲメグラシ「フサーヂ」島

ヲ英国ノ版図ニ入レシハ現ニ近来ノ事ナリ仮令ヘ彼レ自国ノ人民赤子ト雖モ其手ニテハ良キ接遇ヲ受クルヲ得ス又彼国ノ製造品ヲ買売スヘキ好市場アルモ尚自国所領内ニテ物産ノ繁殖并ニ利用ノ種藝盛大ニ至ルヲ妨クルナリ故ニ「カナダ」ハ自然ノ物産ニ於テ最モ富ムト雖モ製造物ニ至テハ英国ノ為メニ其盛大ニ及フヲ防止セラルヽニ因テ自国ニ居テ其産ニ就ク能ハス更ニ活業ヲ需メンカ為毎冬数千人カ「ナダ」地方ヲ去リテ合衆国ニ移住スルナリ

英国ハ「ロンドン」「リーウルプール」及ヒ「メンチエストル」ニ利益ヲ移サントシ印度ニ於テ防止ノ方規ヲ設ケ徒ラニ尽力セシ後種々ノ原由アリテ終ニ事成ラスシテ只印度物産ノ繁殖ヲ止メタリ且此物産ヲ再ヒ起サヽニハ保護税則ヲ設ケサルヲ得スト屢「ロンドンタイムス」「新聞紙」ニ記載セリ該土ノ人民ハ既ニ此保護ヲ待ツニ倦ミ且本国政権ノ下ニアリテハ物産蕃殖ノ期無キヲ慮リ又濠太利ノ所領ニ於テハ本国ノ手ヲ離レントスルノ思考ヲ起セリ蓋シ此人民衆意ノ帰

濠太利領植民地

スル所ニ出ツレハ早晩此思考ヲ熟議シ之ヲ実
地ニ施サントスルノ日ハ恐ク遠カラサルヘシ
予此各所ニ於テ英国ノ為シタル事跡ヲ観之
ヲ考ヘ今同国ノ日本ニ對シテ亦其目途ヲ達セ
ントスルニ尽力スヘカランコトヲ恐ル其謂ハ金
銀ヲ高利ニ貸附ケ日本ヲ佝羅セントシ又内地
肝要ナル鉄道ノ事ニ関係シ米国ミシストルビ
レグハム（後世迄彼レカ名ハ不朽ナルヘシ）氏ヲ除クノ外下ノ関
償金拂方ノ督促其他封建ノ制度廃止ノ後ハ外
国人危害ハ既ニ過キ去リシト雖モ英国舊公使

シル、ロッドルフヲルアルコックク氏ノ承認ヲ以テ
同国水師提督ト長州侯ト取結ヒタル違式ノ約
定即下ノ関ニ炮臺ヲ建築スルヲ禁制セシ約書
ヲ施行セントト欲シ日本トノ交際上ニ於テ自己
専擅ノ方法ヲ設ケントシテ他国ノ公使ヲ
説得シ且国地ニ恥辱ヲ與フル莫大ノ入費タル
横濱ノ屯営ハ既ニ佛国ニテハ之ヲ廃止スルヲ
承諾スル後ト雖モ尚彼国ニ於テハ徒ラニ兵士
ヲ滞留セシムル等ノ事アリ英国ノ勉カ（但彼レカ希望
スルヲ我輩希望ハ東洋銀行ノ出店ニ等シク工
ムル所ナリ）

部ノ諸局ニ擴充セリ曩ニ東洋銀行ニ於テ日本
ニ貸金ヲ為セシ上ハ其保護ノモノヽ給料拂方
等ニ於ケル最モ利益アル方法ヲ以テ其金額ノ
再ヒ金庫ニ帰リ来ルヲ欲スルハ自然ノ理ナリ
件ノ保護ノ者トハ鉄道請負人諸課長機関方書
記其他ノ者ヲ云フ各自ヲ永年間ニ於ケル最重ノ
盟約ヲ結ヒ就中一ヶ年三萬六千弗ノ給料ヲ受
ケ其給料ノ内日本ニテ費スルモノハ些少ニ
シテ概子其金額ヲ以テ英国ニ送致ス加之門国
ノ鉄道製造人機関方大炮製造人及ヒ甲鉄艦製

造人等ニ拂フヘキ金銀モ亦夥シ故ニ年々公債
ノ高利ヲ除クノ外ニ機関ノ賣渡シニ因テ現在
英国ノ受取ル所ハ此公債ノ内ヨリ三割或ハ四
割ナルヘシ而メ為替及ヒ世話料等ニテ亦六分
或ハ七分ヲ得ヘケレハ実ニ最上利益アル商
法ト謂フヘシ
一国ヨリ他国ニ貸金ヲ為ス利銀ノ歩合ヲ以テ
考フルニ前書ノ形状ハ貸附タル元金ノ五割ヨ
リ少カラサルモノトス千八百七十年ロンドン
ヨリ、メール」新聞ニ日本ニアリテ真ニ利益ヲ有

スル国ハ只英国ノミ他国ニ於テ種々術策ヲ施サントスルハ英国ニ於テ笑止ニ絶ヘタル他国ニテ江戸府ニ在留公使ヲ置クカ為メニ費ス失費ハ小児ノ戯ニ等シク只英国ヲ妬ムノ心ヨリ費スナリ且英国ニテ設ケタル方法ヲ以テ日本ヲ導引スヘキハ獨リ英国ノミナラス他国ニテ此ニ尽力スルトモ敢テ功ヲ奏スル能ハス

ト右新聞中ニ腹蔵ナク吐露セシハ実ニ当然理ナリ

予以為ラク此情実ヲ以テ此指揮ヲ受クル片ハ日本ノ為メ啻ニ金銀ヲ費スノミナラス自由ノ権利ヲモ失フヘシ若シ日本ニテ真ニ英国ノ指揮ヲ受ケント決定セハ速ニ其実情ヲ吐露シ苦難ノ遠慮ヲ径スシテ運命ニ任セ国旗ヲ卸シ印度ノ如ク英国ヨリ奴隷ノ接遇ヲ受クルニハナシ

「ロルト、マコーレー」曰ク印度ニ於テ英国ノ政務ヲ誤ルヤ既ニ人間交際ノ道路ニト絶ヘキノ極ニ至レリ政府ハ土民ヲシテ強テ物品ヲ高價ニ買ハシメ而シテ之ヲ廉價ニ売ラシ

ムカシ土地ノ裁判官、巡査及ヒ長官等罪過無クシテ辱ヲ受ケ後テ日ナラス廣大ノ物貨ヲシテ「カルキュタ」ニ輻湊セシメ三千萬人ノ人民困難ノ極ニ至シリ此土民ニ於テ常ニ自国ノ為メ暴虐ノ政ニ苦シムト雖モ豈敢テ斯ノ如キ苛刻ニ至ラシヤ蓋シ土民ノ見所ニテハ印度社中（譯者ノ注則チ印度政府ナリノ小指「ヲ」ヒヤドウ「ヲ」と訳者曰譬ナハヘノ詳カナラス）腰ヨリモ尊ク思フヘシ用主ノ政ニ於テハ彼等尚一種ノ物産ヲ所有セリ然レトモ土民曾テ困弊ニ堪ヘサルモノアルヲ為メニ一回奮起シ其政府ノ廃棄セリ（然ルトモ印度而シテ英国政府ノ敢テ動カスヘカラサル所以ノモノハ他ナシ同国政府ハ野蛮壓制ノ政事ニ於テハ実ニ其極ニ至ルト雖モ未開化人盛ナルニ於テ其権勢ヲ有セリ故ニ英国政府ヲ指シテ人間中苛刻ノ政府ト謂ハンヨリ寧ロ虎狼ノ政府ニ似タリト謂ハンノミ

第六

治法ノ事

前昏ノ如キ眼前ニ危難ノアル限リハ日本ニ於
テ即今真ノ日進トスル所ハ一系ノ皇位ヲ尊崇
シ且之ヲ愛護スルヲ一大基礎トシ国内ノ才能英智
ヲ挙ツテ近臣トシ此四五年以前ヨリ大膳ニモ
企テタル改革及ヒ改教一進ノ偉業ヲ漸次奏功
セシトスルノ主意ヲ終始目的トシテ政府ノ強
且盛ニスルヲ以テ上策ナリトス此日進ヲ以テ
進歩スル中ハ日一日ニ開明且富強ト成リ而シ
テ漸々諸政羅巴政府及ヒ亜米利加政府ヲシテ
獨立且自由ノ権理ヲ以テ全ク萬国公法ノ基本
ニ隨ヒ日本トノ交際ヲ為サシムルニ至ルヘシ
且此日進ニテ開明ノ域ニ至ル時ハ今日高声ニ
テ信友ト唱ヘタル国々ニ於テ屈拒シタル兄弟
国ノ一国トシテ日本ニ受クヘキ尊敬ヲ其国々
ニ迫ケテ為サシムルヲ得ルニ至ルヘシ此時ニ
當ツテハ日本敢テ畏国ヲ憂フル所以ノモノナ
キノミナラス亜細亜州中両国ノ利益ヲ保有シ
且両国ノ威力ヲ廣ムルニ両国合併ノ兵備切用
ト為ル中ハ却テ同国ノ助力ヲモ弁豫スルニ
足ル之何トナレハ地勢ニ因テ之ヲ觀ルニ恰

カモ亞米利加州大陸ノ東隣合衆国ノ地勢ニ於
ケルト等シキ地位ニアレハナリ
斯ノ如キ類ノ同盟ハ屢其例アリ「ルユイス」第十
四世王佛国ノ時代以来佛国改事家ノ説ニ因レハ
亞米利加ニテ英国領ノモノニ自由ヲ許スハ訳者
曰自由ヲ許ストハ佛国ニ於テ亞米利加ニ領地
アリテ佛国強国ナレハ英国ノ領民常ニ英ノ本
国ニ助ケヲ乞フノ外充分勢ヒヲ振フ能ハス佛
依テ佛国ニテ之レニ自由ヲ許スト云フ
国ノ威権ヲ増シ英国ト抗敵スヘキ一ノ海軍盛
大ノ国ヲ起スノ方略ニシテ英国ノ衰弱スルノ
基本ナルヘシト此思考ヲ以テ「ウェルセール」地名

政府佛国ニテ「カナダ」地名ヲ輙ク譲渡ス事ヲ決意セ
リ「カナダ」ヲ英国ニ譲ルハ是迄英ノ本国ニ助ヲ
乞ハサルヲ得サリシ隣国亞米利加領ノ者ニ自
由ヲ許セルナリ蓋シ則獨立ヲ急キ且仰ルト等
シキナリ佛国ノ所領ヲ英国ニ譲渡スノ事ハ一名之レヲ祝スル当ノ
其喜悦ヲ得ルト魚ヲ終ニハ亦佛国ノモノナル
ヘシト「デ、シヨハ、ソーン」氏カ云ヒシハ皆人ノ知
ル所ナリ其後弟一等「コンコルド」「ナポレオン」ヲ云フナルヘシ
其意ノ如クナラス英国ノ益盛ナルニ至ルヲ見
テ合衆国ニ「ルイシヤナ」ヲ譲ル事ニ決意セリ

其時ノ語ニ曰ク若シ貿易及ヒ航海ノ権力ヲシテ一ヶ国ノミノ権内ニアラシメハ世界全国速ニ彼国ニ征服セラルヽニ至ハヘシ何トナレハ此国民ニ於テハ金銀ヲ以テ他国ノ陸軍ヲ所有スルノ権ヲ有スレハ終ニ抵抗シ難キニ至ルヘシ若シ世界ノ為メニ英国貿易ノ間ニ生スル暴虐ヲ防制セシニハ他日英国ノ抗敵トナルヘキ海軍ヲ有スル国力ヲ以テ抵抗セシムル事肝要ナリ而シテ此目途ヲ達スヘキモノハ蓋シ合衆国ナルヘシ英国ハ世界ノ富ヲ吸入セントス若シ英国ノ既ニ亜細亜州ニ威ヲ振フカ如ク亜米利加州ニ於テ威ヲ振ハントスルヲ防キ得ハ予ハ全世界ノ為メ益ヲ為ストカフヘシト而シテ千八百三年ノ條約ニテ此時「ハイシヤナ」ト称シ一方ハ「ミスシツピ」ヲ界トシ他ノ一方ハ大平洋ニ接シタル廣大ノ土地ヲ合衆国ニ譲渡ヲ約セリ合衆国ノ所領一倍スルハ是レ之ニ由シ」此條約ヲ調印ノ時「ボナパルテ」曰ク此土地ノ譲渡シハ合衆国ノ権力ヲ永世堅固ニシ而メ英国ニ海軍抵抗ノ款ヲ與ヘタシハ早晩同国ノ驕慢

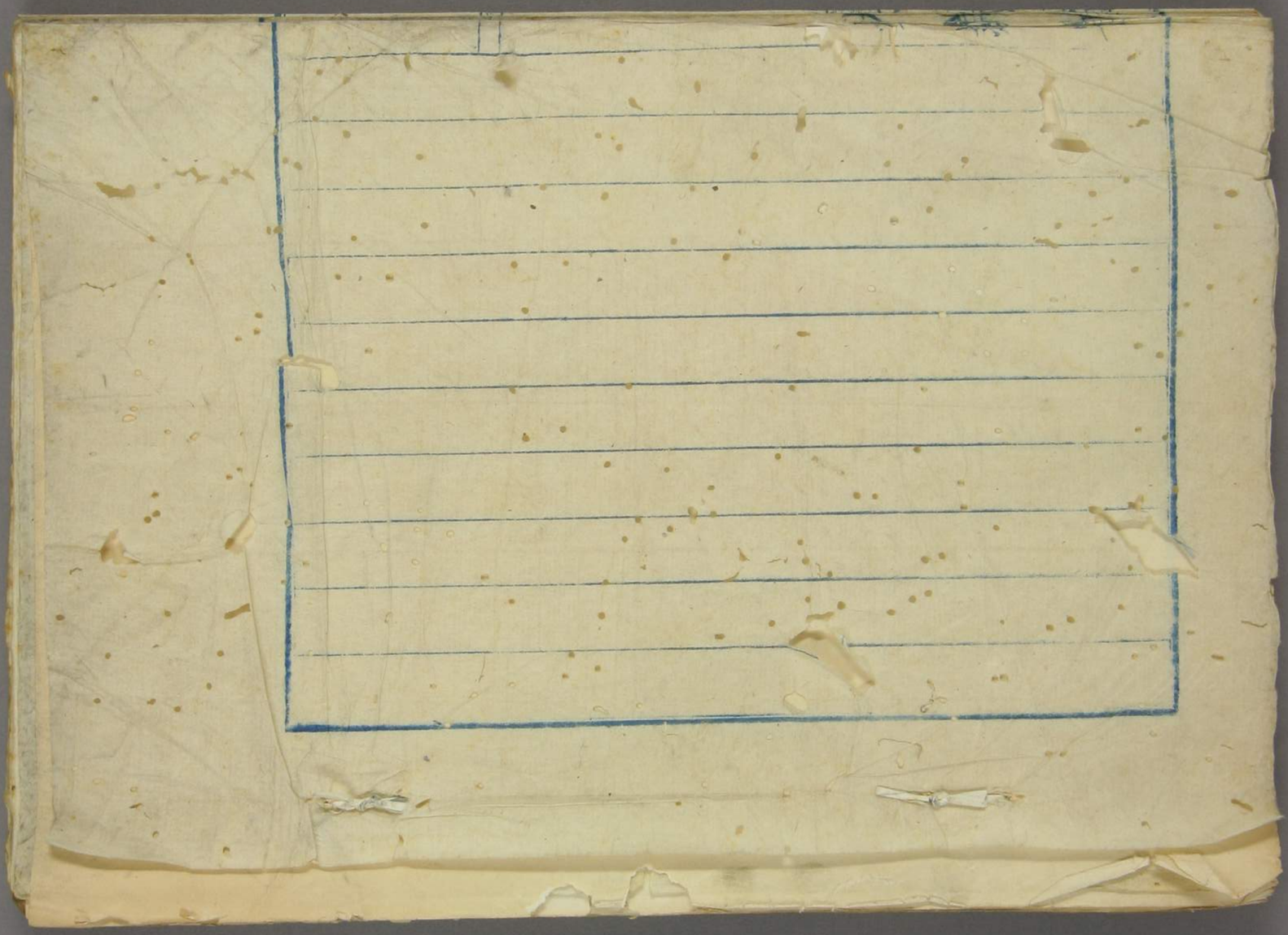
ヲ折クノ時至ルヘシト此譲渡シニ付「ティエルス」氏ノ記スル所実ニ模範トナル少ナカラス第一等「コンシュル」官名其執政ノ一人ニ對シテ曰ク彼日亜米利加ト混雑ヲ釀スヘキ或ハ両国間ニ薄情ヲ招クヘキ所領ヲ保有スルヲ欲セス却テ是レヲ以テ我国ニ合衆国ヲシテ厚情ヲ結ハシムルノ原種ニ用ヒ英国ト同国トノ間ヲシテ不和ニ為サシメ而シテ他日我ヨリ復讐セサレハ英国ヲシテ報仇ヲ受ヘキ故ニ預備スヘシ予既ニ意ヲ決シタレハ「ルーイシヤンヽ」ヲ合衆国(但千八百三年ノ事ナリ)ニ譲ルヘシト是レ於テ合衆国ハ幸ヒニ英佛トノ長戦ニ時ヲ得全ク獨立ト成リ且其所領ヲ全備シ今日亜米利加州ニ於テ国威ヲ振ニ至レリ

其後六十九年ノ後ニ至リ「ボナパルテ」人名ノ先見初メテ其実ヲ表セリ英国ヨリ合衆国ニ「アラバマ」償金ヲ止ムヲ得ス拂フニ至リテ彼レカ驕慢ヲ折クノミナラス従前英国ニテ人間ノ自由ヲ妨クル種々ノ暴動ヲ為セシカドモ敢テ受サリシ罰ヲモ亦曩キニ初メテ之ヲ受

ケレナリ

此佛国第一等ニコシユル時代ノ趣意ニ倣フテ魯西亜ニ於テハ両三ヶ年以前北亜米利加ノ所領ヲ合衆国ニ賣渡セリ今又此趣向ヲ以テ之ヲ考フレハ東洋ニ於テ英国ニ抗對スル敵ヲ與ヘントノ目算ヲ以テ日本ヨリ魯国ニアニワ港ヲ讓渡シ兼テ同所ニ海軍所ヲ建設セント欲スル同国ノ望ミニ便益ヲ與フル事ハ日本ノ為メ最良策ナルヘシ

斯ノ如キノ策ハ若シ魯国ノ威力ヲシテ益東洋中ニ振ハシムルニ至ラハ東洋ニテ魯国ノ威力ヲ振ヒ即今英国ニ於ルカ如ク日本ノ為危害ト成ルヘキ恐レアルヘシト謂フ人アリ然レトモ予ハ此言ヲ信セス上文ニモ述フルカ如ク英国ニテ其威力ヲ益〻廣ク擴充セシ所ノ根源ハ只彼国ノ製造物ヲ賣捌クヘキ貿易場並ニ市場ヲ要スルナリ今魯西亜ハ之レヲ要セス魯国ハ全ク武備国ニシテ今百年モ経過セサレハ自国人民ノ要需ニモ足ル程ノ製造物ヲ産出シ得ヘカラサルヘシ魯西亜貿易ノ景況ヲ載セタル第七十四葉ノ注ヲ

見ハヘシ

是レヨリ五十年ノ後日本ト魯国トノ貿易交際上ニ於テ如何ナル形勢ニ立至ルヘキヤハ今日豫言スヘカラスト雖モ一般ノ形状ヲ推シテ之ヲ考ヘタル愚案目算ニ蓋シ誤リ無カラシテ且今日両国間ニ在存スル双方ノ交通不相破ル無ルヽ以上ハ一般人民ノ幸福及ヒ安寧ニ於テ相互ニ確乎タル日本ト魯国トノ間ヲ措テ又他ニハムヘキモノナシト予カ固ク信スル所ナリ